

南日本放送

活動名	メディアリテラシーを学ぶ
実施期間	令和 5 年 8 月 3 日、11 月 9 日
実施回数	社内見学時 2 回

【実施学校】 鹿児島市教育委員会教育部鹿児島市立少年自然の家、鹿児島市立中洲小学校

【事業実施の成果・課題】

局内やスタジオ見学を実施して、子どもたちがテレビ・ラジオの制作現場を自らの目で見て学ぶことができました。見学をしたことで講話や VTR 視聴に、より興味を持って臨むことができたと感じます。第 1 回の講話「天気学ぶ」では、子どもたちが実際にクロマキーを使い、気象予報士となって気象情報を発表。

1 人 1 人が「伝える」側を経験できました。

第 2 回の講話では、記者経験のあるキャスターが「ニュースが放送されるまで」について話し、自らの経験からどのように「早く、正しく、公平な」ニュースを届けているかを伝えました。時間の制約もある中で参加者も多く、社屋内での移動に時間がかかってしまい、若干見学が駆け足になってしまった点が課題です。

【事業担当者の感想】

講話や VTR 視聴では必死にメモを取り、局内・スタジオ見学では目を輝かせていた子どもたちに、吸収力を感じるとともに体験することの大切さを感じました。

クロマキー体験では、子どもたちが自ら言葉を選び「伝える」側に立つことで、その難しさや奥深さを感じてくれたのではないかと思います。「ニュースができるまで」の講話の際には、たくさんの質問が寄せられ、1 人 1 人が熱心に取り組む姿勢を感じました。

今後、情報を発信し、そして受け取るとき、今回の経験を少しでも生かしてくれたら嬉しいです。

【教諭・子どもたち・視聴者などの感想】

- ・いつも観ているテレビの裏側を見ることができ、たくさんの発見があった。
- ・天気予報を放送するまでを体験できたので楽しかった。
- ・天気のことについてよく分かった。クロマキーや CG 技術について詳しく知りたいと思った。
- ・ニュースはただ単に伝えるのではなく、正確性や公平性など気を付けないといけないことがたくさんあると知った。
- ・一方的な放送はダメだということを知った。たくさんの人が関わって放送していることが分かった。
- ・学んだことを考えながらテレビを観たら、新しい発見がありそう。
- ・ニュースをあまり観なかったけどこれからはできるだけ観ようと思った。